

開創六百年記念報恩大授戒会

「食と温もりのお授戒」

今年五月、開創六百年を迎える大寧寺では、五月九日〜十三日の五日間、大授戒会の行事が開催される。

戒とは、「人間として守るべき良い生活習慣を意味し、お釈迦さまが弟子たちに戒法を授けた儀式が今日にまで伝えられ、授戒会の大切な修行の場とされた

ものである。当日は、曹洞宗大本山總持寺より戒師様をお迎えして執り行われる。

「食と温もり」と題する今回の授戒会は一般の方を対象とし、食事は当寺が心を込めて提供する精進料理を、夜は湯本温泉でお湯の恵みを存分に味わっていただく。檀家であるなし、宗派な

5月
9~13日



どは一切間はず男女どなたでも参加でき、今回は二百人の参加を予定している。

日常から離れた意義ある時間に身を置くことは大変貴重で、功德の証として授けられる「お血脈」を受ける喜びは深い感動

大寧護國禪寺：TEL 0837-25-3469 / FAX 0837-25-3646

食と温もりの
大授戒会 大寧護國禪寺

期日 平成22年5月9日(日)~13日(木)
会場 山口県長門市湯本温泉 瑞雲山大寧寺
TEL 0837-52-3469
後援 曹洞宗山口県宗務所 曹洞宗青年会

「恩湯」と「礼湯」

大寧寺三世・定庵禪師が月の夜、寺の周りを散歩していると石の上で坐禅を組む老人と出会う。この老人こそ、長門一宮(下関)の住吉大明神であり、老人はその後仏道を修めた定庵禪師から菩薩戒を受けた法恩に報いるため、山の奥に温泉を出しておきましたと告げたあと、竜の姿となつて雲の上にかき消された。



浴槽内に祀られている大明神

これが湯本温泉開湯の謂われとされているが、二つの公衆浴場「恩湯」と「礼湯」は、今では地元の人々のコミ

「礼湯」。こちらの方が「恩湯」よりもお湯の温度がやや高い

ユニケーションスポットとして賑わっている。また、浴槽内には大明神の像が祀られ、湯につかるとご利益があるとも云われている。

千代橋のたもとに建つ「恩湯」。脇の坂道を登ると「礼湯」へ。夜はネオンがライトアップ

明暦三(一六五七)年創業 萩焼 深川窯の始まり

その歴史は豊臣秀吉の時代にさかのぼり、文禄・慶長の役に朝鮮(李朝)陶工を連れ帰ったことに始まる。萩では、毛利輝元が松本村に藩窯を創設し、李勺光・李敬兄弟が焼いたのが始まりである。それから約半世紀



深川本窯の登り窯



十三代 田原陶兵衛作

後の明暦三(一六五七)年、藩の許しを得て深川三ノ瀬の地に「三ノ瀬焼物所」が開窯された。三ノ瀬焼物所は、当初より「自分焼(自家営業)」が認められた半官半民の性格をもっており、松本とは異なっていた。そのため、松本の御用窯を「松本窯」と呼ぶのに対し、こちらは「深川窯」と呼ばれている。現在、湯本三ノ瀬には五戸の窯元がある。



取材協力:萩焼深川本窯 十三代 田原陶兵衛